

# ちよんごころこころ

## 第二〇〇 仏法でゴー

法然上人様のお言葉に「源空（法然）が念佛申すも一文不通の男女に齋しうして申すぞ、全く年来修学したる智恵をば一分も憑まざるなり。」と申されました。このお言葉は法然上人様がお開きに成られた浄土念佛宗の神髄であると思います。これを訳せば「学問をした私の申す念佛と文字を知らない学問もしてない人が申す念佛も同じ念佛なのです。」お念仏はご存知の通り、阿弥陀様を帰依する事です。信仰の基本は阿弥陀様や・観音様・お地藏様・お不動様等色々な佛様を帰依することです。帰依とは佛様に好まれる、気に入って頂ける行動をする。佛様にダメダシをされるような行動をしない、これを持続するのが帰依、即ち、信仰者が行う第一であると私は思っています。佛にダメダシを食らはない為に、人格の形成が大切です。

大格が信頼と信用を生む」からです。佛に祈願をする前に自己の確立をしておくべきです、それが信仰者です。吾が身を顧みず、お願いするばかりでは片手落ちです。

溺れる、と言う忌まわしい言葉が御座います。溺れる事態は滅していく事を意味してると思っています。心を奪われる」。即ち、自らか他からかの要因により、精神が正常でない状態に陥り判断を誤る事です。溺れる者は藁をも掴む」との例えどおりです。溺愛と言う言葉は子供に対する愛情の掛け方が失敗した時に使われやすいのですが、私は好き合って結婚し、離婚するカップルは当に愛に溺れて死んだ形であると思っています。人生街道には至る所に、目には見えない大きな落とし穴が開いています。落ちて溺れないよう心掛けておくべきです。回避するには先ず、自分の為に他を傷つけないことです。佛の教えに十悪・五逆を犯してはいけませんよ、とあります。それは殺生・偷盗・邪淫・妄語・綺語・両舌・等のことです。要約しますと、殺生も自他共に生きる生命を断つことです。前の三つ以外は口による禍です。心にもないおべんちゃらを言ってみたり、嘘を言ってみたり、一枚舌を使ったり、怒ってみたり、凡そ己が心に反する行為を平気でしてしまう事です。此の事が正しく行こうとする自信を破壊していくのです。お釈迦様は悩みを解決する一番の方法は正しく身を処する事にあると言われました。物事の善悪を判断する能力を養う事にあります。法然上人様も大衆を救う為に自らを最低の位置に置き、全ての人々を自分が受け皿として受け止め、教えを広められたと思っています。自分を上げるのでは無く下に置く事が、大切な事です。人間は名聞利養を求め野望に狂いがちです。欲望に溺れるとは当に此の事です。ついに欲望の大火に身を投じてしまうのです。火も小さいうちなら消し易いのです。これが大難を小難にする秘訣です。

修養は一日を一生とし、終焉で呼吸が止まる迄、何回でもやり直し、人格の完成を目指すのです。仏道に精進する事が信仰者としての勤めなり。

与えられた吾が命を最大限に生かす 妙薬は仏法」です。レッツゴーブディスト

二十八年十月一日

善壽界善入院油樹地藏尊